

函南卓球教室の小山の思い

平成30年11月1日

2010年東京卓球選手権での小山 ⇒



昭和56年（1981年）に、熱海市で卓球教室を始め、平成になり函南町で卓球教室を始め、私の卓球教室の歴史は37年になります。失敗もたくさんありました。毎年、試行錯誤しながらも、子どもたちのために卓球教室を続けています。

私が卓球教室を続けるのは、卓球への恩返し。私にできる唯一の社会貢献が卓球だと思うからです。私にできる社会貢献の卓球で、子どもたちのために貢献したいと思います。一人でも多くの子が、卓球をもっと知ってもっと好きになるように頑張ります。

練習できる場の提供

卓球の練習をしたくなったり、うまくなりたい時に、練習できる場所があること、指導してくれる人がいること、そんな場所が必要だと思っています。たとえ1人でも、卓球が好きで練習をしたい子がいれば教室を続けますし、生徒がゼロであっても一人で自分の練習をしながら待ちます。また、人数が多くて大変な時も、新しく入りたい卓球が好きな子を拒むことはないように考えています。少数精鋭、定員制にはしないで工夫して練習したいと思います。



(↑小学生卓球教室会場 2018.10)

子どもたちには、卓球を好きになって欲しい

一番の目的は、卓球を好きになってもらうこと。目先の勝ちにこだわるよりも、自分の好きなスタイル、戦形で卓球を好きになって、将来も卓球を続けて欲しいと思います。

子どもにはスポーツをして欲しい、その中の一つが卓球で、走るのが苦手な子でも卓球では攻撃型から守備型まで色々なタイプがあるので、その子にあった形を選べ誰でも取り組むことができます。すぐ上手くなる子や上手くなるまで時間のかかる子がいますが、一生懸命続ければきっと良い思い出が作れます。まずは卓球を好きになることが一番です。

経済的負担は少なく

卓球教室では、なるべくお金がかからないように、最初の1ヶ月は体験として無料、会費はボール代も含めて月500円。ラケット、ラバーはセールで安く仕入れてストックしたものや、小山のお古を使ったり、子どもの負担を少なくしています。一年中いつからでも参加でき、最初は小山のラケットの貸し出しもしています。

練習は大変でも、一生懸命に楽しく練習したい

平成30年8月からは、多球練習もフットワーク練習も毎回取り入れるようにしています。楽しいだけから、少しきつけれど一生懸命練習する時間もあることが、より上手くなるのが、卓球が楽しいと思えることに通じると思います。平成30年7月までは人数が

多くて一人一人を見る時間が少なかったのですが、ようやくできるようになってきました。また特に小学生には、熱海や函南の試合が中心でしたが、平成30年から、全国大会や東海大会等の県予選に出場するようにしています。積極的に大会に出場して、良い思い出をつくってあげたいと思います。



(↑全日本クラブチーム選手権出場の函南の小学生 2002年滋賀県)

私の練習時間は少し減らして、指導していきます。

文武両道を目指したい

子どもたちには、勉強もスポーツもして欲しい。いつまでも続けられ体力にあったスタイルを選べる卓球は、素晴らしい生涯スポーツだと思っています。また卓球だけでなく勉強や文化活動やって欲しい。平成28年には、卓球教室の休憩時間に勉強をしたり、クイズをしたりと試しに取り組みましたが、卓球教室の休憩時間だけでは時間が十分でなく難しかったため、平成30年からは教室の時間内の勉強はしばらく休みとしています。

あいさつ、協力も大事

あいさつがしっかりでき、一生懸命練習して、準備も率先して協力することは大切なことだと思っています。準備を率先して協力してくれる子には、始まる前に時間があるときに、できるだけ相手をしてあげています。しっかりあいさつができて一生懸命練習している子を見ると教室を続けていて良かったと思えます。



時々、日大三島高校、沼津東高校などに練習に行くと、とても (↑小中学生卓球教室 2017.10)

元気にあいさつをしてくれます。特に日大三島高校の選手は、大会会場でも大きな声であいさつしてくれるので、また日大三島高校へ行って練習をしてあげたいなと思います。函南卓球教室の子どもたちも、一般の選手に練習してあげたいと思われるような、あいさつと一生懸命な卓球への取り組みをして欲しいと思っています。函南卓球教室の参加資格には、あいさつがしっかりできること、一生懸命練習できることを条件にしています。

社会人と一緒に練習

小中学生卓球教室に一般の選手が練習に来てくれ、水曜日の上級者卓球教室は、卓親会の練習も兼ねています。田方、東部、県のトップを目指して頑張る子には、私も一緒に頑張ります。卓親会の選手など、高校、社会人の上級者と一緒に練習してもらっています。

私にできる社会貢献

私が卓球によって生きがいを得られました。卓球によって得た自信が、勉強やスポーツの力になりました。(中学1年の途中から卓球を始め、1年の最後の大会で市で優勝すると、勉強の成績、スポーツテストの順位が劇的に上昇、何事にも積極的になれました)

卓球教室を続けるのは、私の卓球への恩返しと考えています。私にできる社会貢献は卓球しかありませんが、卓球で社会貢献したいと思います。

大変だけど私も力をもらっている

卓球教室を続けることはとても大変です。さらに、平成30年9月からは小中学生卓球教室(7:30～)の直前に、小学生卓球教室(6:45～)も追加し、ますます自分を大変にしてしまいました。午後5時に仕事を終え、通勤に1時間かけて帰宅して、すぐに卓球教室に行きますので余裕がありません。それでも卓球教室がある日は元気がでます。大変だけど力をもらっています。

卓球ができる喜びが今も続いています

アルバイトの大学時代を経て、民間会社に入って2年間までは卓球ができなくなりました。できなくなると卓球をやりたい思いが強くなり、入社2年で退職し大阪から熱海に帰り卓球を再開し、卓球教室を始めました。卓球がやりたい思いが、それから今も続いています。中学・高校時代は人並みに練習したつもりですが、もっと一生懸命に練習すれば良かったと卓球を再開した時に後悔しました。全国でも活躍した同い年の篠原選手(富士宮北高校→法政大学)には気づくのが遅かったとよく言われます。もう卓球で後悔したくないので、油断することなく、いつまでも卓球と卓球教室を一生懸命に続けていきたいと思っています。

パラリンピック選手の応援も

熱海と函南は、いち早く平成元年から障害のある選手と健常者の交流大会を実施してきました。今まで日本のトップクラスの選手が試合に参加してくれています。地元には車イスの熱海の茶田さん、富士宮の土井さん、長泉の芹沢さん、沼津聴覚のOB選手など東京パラリンピックを目指す優秀な選手がいます。この選手たちや全国の障害のあるトップ選手の試合を通じての応援も続けていきたいと思っています。

この交流には、当時の多賀中学校卓球部の先生と生徒の協力がとても大きな力になりました。ボール拾いから会場への付き添いなどなど、特に多賀中学校の女子卓球部は本当に偉いと思いました。大会ではいつも、多賀中学校の生徒は、本部と体育館事務室にしっかりした挨拶をしてくれました。この精神を引き継いでいきたいと思っています。

熱海と函南の大会では、今までどおり交流の種目を設けて、健常者の選手と障害のある選手の交流を続け、熱海と函南の小中学生に何か感じてもらえるものを与えられたらいいなと思っています。

私も技術の向上、成績の向上にずっと挑戦し続ける

私の目標は、年代別の世界チャンピオン。世界ベテラン卓球選手権大会には、現役のオリンピック選手、ナショナルチームの代表、プロ選手、ブンデスリーガー、元世界チャンピオンなど、約100カ国から、あこがれの選手や強豪が数多く出場します。20年前には予選リーグの突破も難しかったのが、今では、世界の頂点も夢ではなくなってきました。2014年のニュージーランド大会ではベスト4にあと1点の5位、2016年のスペイン大会では元ヨーロッパチャンピオンを破り9位。いつまでも向上心を持って練習し、体力を維持していけば、いつかメダルを取れると思っています。

大学時代はアルバイトで、また民間会社の2年間と6年間以上卓球から離れていたため、日本リーグや大学で活躍した選手に勝つのは、なかなか大変でしたが、少しずつ勝てるようになってきました。相手が不摂生でこちらが摂生して、ようやく勝負になります。全日本社会人選手権、国体などの静岡県代表になったのは30歳になってからでした。毎週月曜日、金曜日は卓球教室で自分の練習は水曜日ですが、マラソン大会にも出場して体力を維持しながら、もっと上手くなって、全日本や世界大会で活躍していきたいと思います。

卓球を通じて世界の選手と交流したい

試合で世界の選手との交流も卓球の醍醐味です。今まで、インド、イタリア、トルコ、アメリカ、ドイツ、ブラジルなどの選手とダブルスを組んできました。

娘の折紙教室にはドイツ、イタリア、チェコなどの友人が参加し人気だった。(→右の写真イギリス、マンチェスターにて)
(↑左上の写真はリオオリンピックスペイン代表の何志文と小山 ス페인)
(↑右上写真は小山・シャピーロ(アメリカ)組とデンマークペア ニューゼaland)



試合に出るため、卓球教室を続けるために早期退職

2014年のニューゼaland大会でシャピーロ選手(アメリカ)と組んだダブルスで準々決勝で惜敗し、もう少しでメダルを逸したため、次の2016年のスペインの世界大会でもう一度ダブルスを組んで雪辱しようとシャピーロ選手と約束したため、2016年3月で職場を早期退職しました。卓球教室を続けるためにも退職の理由の一つです。こんな卓球バカは珍しいと思います。

小山の主なプロフィール

熱海市立小嵐中学校時代に中体連東豆卓球大会で個人、団体優勝。1,500m走6分40秒→5分、懸垂3回→20回、学年の成績68番(134人中)→7番→1番(数学等)

トライアスロン2回出場、海外ではニューカレドニア国際フルマラソン、ガム国際フルマラソン、ウィーンマラソン出場、国内では湘南国際フルマラソン、河口湖フルマラソン、掛川フルマラソン、荒川フルマラソン、湘南塩出し昆布マラソン(走る前と走った後の体重差を量りその差が大きい人が優勝する大会)等出場。駅伝ファミリーの部では山中湖、長野県富士見町優勝。

環境作文全国入賞、福祉作文県入賞、行政書士試験合格、英語検定・漢字検定準2級、全国ベテラン優勝、全日本卓球選手権(マスターズの部)第5位、世界ベテラン卓球選手権第5位、中部日本卓球選手権優勝、全国教職員ベテラン卓球選手権優勝、全日本社会人選手権・国体静岡県代表。

登山は日本のベスト3の高さの富士山、北岳、穂高岳、5番の槍ヶ岳などを登る。

テニスは熱海市優勝、バドミントンは3位。

日本テレビのびっくり日本新記録に手作りいかだのピンクのブタ号で2週連続テレビ出場。

欽ちゃんの仮装大賞は予選敗退。

貧乏旅行でインドネシア、ネパール、スリランカ、スイス、イギリス、スコットランド等を旅する。バングラディッシュ空港では軍の兵士に拳銃で脅され、スリランカのゴール市ではナイフを見せられ脅され、バリ島の一流ホテルでは値段の交渉で追い払われる。

ホームステイ受け入れ4回。平成28年3月末で早期退職。



←スリランカの南端のまちゴールへ向かう電車にて。

このあと民家に50円で泊まり、翌日ワニを見に行ったとき6人にナイフで脅され、断り続けたが最後にしかたなく50円を渡す。

首都コロomboのホテルのロビーで野宿したが、2ヵ月後、シンハラ人とタミル人の抗争で、この時滞在したホテルが炎上したというニュースが流れた。



←第1回ゲームマラソンのスタート。すぐ近くに日本代表の喜多選手（神戸製鋼）がいた。左手前が小山



←埼玉トライアスロン大会。ヘルメットは娘の函南中学の通学用。自転車は折り畳みマウンテンバイク。
(埼玉スタジアム)



←日本アルプス、槍岳、北岳、穂高岳などを登る。ネパールのポカラではエベレストの麓をトレッキング。道に迷ったドイツ人と一緒に50円で雇ったシェルパの子と散策。



←日本テレビのびっくり日本新記録のいかだレースにピンクのブタ号で出場。2週連続テレビに登場。下は大野アナウンサーからインタビューを受ける。



←伊豆地区のテニス大会の決勝戦。なんと、決勝は、篠原（富士宮）組と小山組の卓球選手同士になった。右が小山。優勝は小山組だが篠原は卓球もテニスも天才だった。